

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	講義室
担 当 教 員	本多 健	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>質の高い臨床を行う為には解剖生理学の知識が欠かせない。解剖生理学VIでは運動器(頭頸部の骨、関節、筋)と局所解剖について学習する。まず、頭頸部の骨の名称、部位、関節について学び、筋肉の起始・停止・作用・支配神経を理解する。その後、局所解剖について学習する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>平常評価(小テスト、課題)30%、期末試験70% 60点以上を合格とする。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書:『解剖生理』東洋療法学校協会編、医歯薬出版(2022年第1版)、(旧教科書:『解剖学(第2版)』『生理学(第3版)』、東洋療法学校協会編、医歯薬出版) 運動器、局所解剖 持参物:教科書を常に使用します。 資料・課題:そのつど配布を行う。 参考図書:『解剖学(第2版)』『生理学(第3版)』、東洋療法学校協会編、医歯薬出版/『解剖学講義』、伊藤隆著、南山堂/『イラスト解剖学』、松村譲児著、中外医学社/『解剖学アトラス』、越智淳三訳、文光堂/『解剖学』、清水勘治著、金芳堂など いずれも図書室蔵書</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>○シラバスにて教科書「解剖生理学」の項目を記述してます、事前に指定所をよく読んで予習しておくことが望ましい。また、模型を使用する等して理解を深めましょう。 ○授業中に課題を配布するので、授業後に課題を実施して、指定日に提出すること。 ○授業のはじめに前回までの授業内容から、小テストを実施しますので、復習をし、課題・資料などを見て確認を行うこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>解剖生理学は重要な基礎科目です。なにより人体の構造は鍼灸師、医療人として必須の知識です。特に解剖生理学VIは実技においてはもちろんのこと、経絡経穴学・整形外科・リハビリテーション医学などにも関わってきます。しっかり理解しておくようにしましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋の骨(頭蓋冠、頭蓋底)、縫合と泉門を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	骨課題 P4～7 【作業課題】を行い、骨の部位の名称を覚える。	
		各コマにおける授業予定	頭蓋の骨 教科書P45～46			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋の骨(外・内頭蓋底)、顔面頭蓋と眼窩を構成する骨の形状と名称を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	骨課題 P8、9、10～13 【作業課題】を行い、骨の部位の名称を覚える。	
		各コマにおける授業予定	頭蓋底の骨 上・下顎骨、眼窩の骨、顎関節 教科書P47～48			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	鼻腔を構成する骨と顎関節の基本構造を理解し、説明できるようになる。関節円板がある。	教科書・プリント 骨格模型	骨課題 P14～15 【作業課題】を行い、骨の部位の名称を覚える。 次回小テスト⑦を実施するので、教科書と配布プリント内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	教科書P77,78			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	顎関節について理解し、説明できるようになる。(靭帯と関節面の形状) 頭頸部の筋(咀嚼筋・表情筋)について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨、筋格模型	教科書(P79)と配布プリント(P～)内容を復習しておく。 教科書と配布プリント内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	環椎後頭関節 教科書P79			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の筋(咀嚼筋・表情筋)について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P3～7 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。	
		各コマにおける授業予定	頭頸部の筋 教科書P80			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体の腔所、胸腔(縦隔)を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	頭蓋腔と脊柱管、胸腔と横隔膜 P278～279			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体の腔所、腹腔(横隔膜)、骨盤底部を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	腹腔と骨盤腔と体幹の体表解剖 P280～281			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、腋窩、上腕(内側二頭筋溝)を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	腹部の体表解剖と上肢の局所解剖 P282～283			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、肘窩、前腕、手根部を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	肘窩、前腕、手根部の体表解剖と解剖 P284～285			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、下肢の局所解剖殿部、鼠径部を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	下肢の局所解剖、特に殿部、鼠径部の構造 P285～287			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、大腿部、膝窩部を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	下肢の局所解剖、特に大腿部、膝窩部の構造 P287～288			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、足部を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	下肢の局所解剖、特に足部の構造 P289～290			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、頭頸部と全身の動脈拍動部を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	頭頸部の局所解剖と全身の動脈拍動部 P291～293、P158			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	体表解剖、まとめを理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	授業プリントの該当箇所を覚える。臓器、神経、動脈、静脈等を覚える。
	各コマにおける授業予定	頭頸部の運動器と局所解剖のまとめ P277～293			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の運動器と局所解剖の範囲を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	自分が間違えた所や分からなかった所を覚えておき、終了後に全授業の中からもう一度探し出し、正しい内容を覚える。
	各コマにおける授業予定	まとめ			